

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520914

研究課題名(和文) 民俗信仰の混融性—平戸諸島を中心にして

研究課題名(英文) The melding of Beliefs in Folk Religion: In the Case of the Hirado Islands

研究代表者

福島 邦夫 (FUKUSHIMA, Kunio)

長崎大学・水産・環境科学総合研究科(環境)・教授

研究者番号：60189933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：平戸諸島の宗教者、盲僧、修験、仏教寺院、かくれキリシタン、ホウニン、神官などの宗教活動について調査を行った。その結果、修験、盲僧は荒神祓い、講経、等の点で重なり、仏教寺院も荒神祓いを行っている。かくれキリシタンやホウニンの信仰の中にも生き霊、死霊の考え方が入っている。これは、盲僧、修験にも見られる。また、神官の活動は様々な問題に関する祈祷など広い範囲にわたっている。民間宗教者の活動は重層しており、また、その動きも混融していることがわかった。また、受容する側の村人の側もそれぞれ同様な働きを持つものとして認識されていることがわかった。

研究成果の概要(英文)：The research focuses on the function of religious figures, such as Moso, Shugen, Buddhist temple priests, Kakurekirishitan, Hounin, and Shinto priests in the Hirado islands. Moso and Shugen both perform Kojinn-barae and Kogyo. Also, Buddhist temple priests do Kojinn-barae. In the beliefs of the Kakurekirishitan, there can be seen the notion of Shiryo and Ikiro, which are characteristic of Hounin. The activity of the Shinto priests cover a wide range of activities. The various functions of these religious figures in the folk society of the Hirado islands have melded into one another. Consequently, the receptive villagers recognize them as basically having the same functions.

研究分野：宗教民俗学

キーワード：民間宗教者 機能の融合性 機能の重層性 混融

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 1970年代末から1980年にかけて、東京教育大(当時)の調査団によって、平戸諸島の調査がおこなわれ、当該地においては修験の活動と盲僧、ホウニン、寺院、などの活動が重なっており、宗教者と依頼者との関係はその中心となる祭祀儀礼に分担の傾向は認められるが、不明瞭で不安定なものとされ、解明は今後の課題とされた。(かくれキリシタンは調査対象に含まれていなかった)

(2) 平戸諸島の主要な宗教、修験に関しては、宮本袈裟雄氏の研究があり、盲僧に関しては西岡陽子氏、ホウニンに関しては桜井徳太郎氏、かくれキリシタンに関しては、宮崎賢太郎氏、中園成生氏などの個別研究があったが、それら全体を見通した総合的な調査、研究はなかった。

(3) 研究代表者は1980年代から1990年代にかけて、平戸地方のホウニン、修験について調査、研究をおこない、当該地区に関するデータをいくつかもっていた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は平戸諸島(主に生月島)を中心に同地で活躍するさまざまな宗教者、修験、盲僧、かくれキリシタン(信者をさす)、寺院、ホウニンなどが活躍する様相をとらえることをまず目的とする。

(2) 修験、盲僧、かくれキリシタン(信者をさす)、寺院、ホウニン、それらの活動や信仰が、いかに重層、混融しているかを明らかにしようとしたものである。

## 3. 研究の方法

(1) それぞれの宗教者の活動について、宗教者にインタビュー調査を行い、活動の内容を明らかにする。

(2) 宗教者の行う宗教行事について、参与観察を行う。

(3) 松浦資料館の文献資料、宗教者の持つ歴史的史料を解読し、歴史的背景を考察する。  
(1)(2)(3)を総合して、それぞれの宗教者の活動と信仰を把握し、さらに、それらがいかに重層、混融しているかを明らかにする。

## 4. 研究成果

(1) まず、修験寺院から述べていく。平戸の修験寺院については宮本袈裟雄氏の先行研究がある。それによると、平戸の里修験は、ヤンプシ、ヤンボシさんなどと呼ばれて、法行院(志々岐、現在廃寺) 頼行院(猪渡谷) 文正院(根獅子) 宗正院(木場)

喜法院(下中野) 光明院(志々岐)などがあり、光明院が天台宗であるほかは言宗醍醐派に属する。江戸中期の延享二年(一七四五)の「諸宗末堂帳」の記録によると、明光院、福蔵院、威福院、天修院を始め、十一ヶ院の山伏が存在したという。

現在はKH院(平戸中野) DS寺(平戸木場) RG院(猪戸谷) SK寺(平戸根獅子) SR寺(大島村的山川内) KS寺(生月町)以上六ヶ寺が活動している。

宮本袈裟雄氏の調査時点では宗教活動として、家祓い、三宝荒神の祀り、講経、稻荷神の祀り、川祭り、家相見、地鎮祭、そのほか、護摩供養、年越祈禱、正月の初祈禱など、加持祈禱として、病気平癒、家相見、暦などをおこない、加持祈禱の活動の比重が大きかったという。

現在の修験の活動は家祓い、講経、荒神祓い、虫追い、川祭り、稻荷まつり、死霊まつり、護摩供養、病気なおし、平戸(生月)八十八カ所の世話人、冬至冬夜などを行っている。崇拝する霊山としては、平戸安満岳、志々岐山である。本尊はKH院は十一面観音、RG院は不動明王、KS寺は弘法大師である。一寺が天台宗であるほかは真言宗醍醐派に属する。

江戸中期からの記録があり、KH院は享保年間(1726~)、生月町KS寺は新しく大正年間、RG院は正徳年間(1711~)からの記録がある。このほか現在は活動していないが、平戸田平にU寺があり、その墓地には多くの石塔がある。古文書も残されている。(一部翻刻)それによると、慶長年間(1596年~1615年)の創始の伝承がある。また、懸仏には正徳四年(1291)の銘が残されている。開創は相当に古いことが考えられる。田平のU寺と平戸の修験寺院との関係はまだ、不明である。

(2) 盲僧とは、本来地神盲僧と呼ばれるように地の神(玄清法流では荒神)をまつり、檀家を廻り、琵琶を弾きながら、家祓いや荒神祓いをし、四季土用の祓いを行って、それを主なりわいとしてきた。盲僧または親しみをこめて、琵琶弾きさんと呼ばれる人々は、平戸ではJ寺(職人町) K院、(川内町) MD寺(獅子町) K院(野子町) 某院(大川原) MH寺(山中町)以上六人、生月にはMH院が存在する。(昭和19年の成就寺資料では十六人の盲僧が確認される)現在の盲僧は盲人ではなく、全員が晴眼(目が見える)である。まず、総体的に古い起源を持つものも含まれることがあげられる。J寺は明暦頃(1655年)にはすでに活躍していたという。J寺は天台宗に属する。当時は金融業も営み、盲僧というよりは当道に近い存在だったと言える。主な活動は荒神祓いと講経である。くずれと呼ばれる語り物は現在はしない。講経は荒神祓いとともに行われる。長い時は3時間もかかる。荒神祓いとは異なる。家を新築したときは、鎮宅講経がおこなわれる。主

に神棚、稲荷、土地の神、荒神などを拝み、荒神祓いと異なる点は仁王経や不動経、阿弥陀経などを唱えることである。また、外荒神の祭りも行う。外荒神とは個人宅ではなく、村にまつられている荒神のことである。これは秋に行われる。このほか作の神、稲荷、水神をまつ。荒神祓いは春秋、正月、五月、九月におこなわれる。廻壇は比較的近場である。J 寺はやや遠方の度島に檀家を持つ。講経や荒神祓いのほか MH 院は、神棚のつとめ、仏像開眼、死霊さまをまつ。(死霊さまとは主に海や海岸などで人が死にその霊が死霊かぜといわれるものとなって、人につく。そうすると具合が悪くなるといわれるものである、それを祓う)星祭り、厄除け、加持、狐おとし(30年ほど前)、神よせ、牛供養、護摩焚き、大般若での加持、八十八カ所の世話人をつとめるなど多様な活動をしてきた。J 寺は易をする。J 寺の本尊は十一面観音、M 院の本尊は、不動明王である。

(3) 次にかくれキリシタンについて触れる。中園成生氏はかくれキリシタンの信仰とそのほかの信仰との併存性を指摘する。かくれキリシタンの信者の家にはキリシタンの信仰対象の御前様のほかに複数の神仏が祀られている。たとえば、壱部のKM氏は家の入り口から順番に天照大神、御前様、弘法大師、荒神がまつられ、一年に一回、修験がお祓いにくる。白山神社の札もはる。かくれキリシタンは葬式も仏式とかくれキリシタン方式が合わせて行われる。また、須古踊りなど祭礼行事にキリシタンも参加する。かくれキリシタンの主たる行事には元旦に御前様にお参りする「初参り」などの民俗的な行事の他、屋(家)祓い、(中江の島から取ってきた聖水をふりかけて家内を祓う)「田祈禱」や「作前」、「風止め」、「作のサービャーよけ」、「池祭り」などの農作行事がある。また、「ハツタイ様」という行事がある。これは比売神社の神主が神事をおこない、さらにキリシタンがオラショをとこなえるという神道とクリスチャンの合体した行事である。そのほか、葬式の際には悪い風をはらう「風離し」、死者のためにオラショをとこなえる「戻し」、葬式の際の僧侶の経は間違いですという意味の「経消し」がおこなわれ、僧侶による葬式直後、葬式のために借りた家をはらう「祓い出し」がおこなわれた。いわば、仏教の葬式の行事をキリシタンの行事を行うことによって打ち消すことが行われた。これは、信仰の併存とはいいがたい。また、原因不明の病気につかれている場合は悪風祓いをおこなった。これはかくれキリシタンオラショを唱えたあと次のような文句をとこなえる。「生霊、死霊、生霊ならば人体へ帰れ、死霊ならば墓へ帰れ、山の神、水の神、山の神ならば山へ帰れ、水の神ならば水へ帰れ、(中略)天の御三本様、サンタマリア様(後略)」生霊、死霊などの祓いは主に呪術的な祈禱師であ

るハウニンや修験の管掌になるものである。また、かくれキリシタンの最高の役職お爺役の選出にあたってはハウニンとの接点がある。どうしても、後任のお爺役が決まらない時(お爺役は時間的にも、精神的にも負担が大きく、辞退する信者が多い)、祈禱師であるハウニンに御前様の神意を伺って決定する。御前様の決定に逆らい受諾を断ったりすれば、神の祟りを受けると考えられている。また、キリシタンの神寄せの言葉の中には以下のような言葉が述べられる。生月山田では「安満岳の奥の院さま、牛頭天王様(薬師如来の化身)、...」平戸根獅子でも「安満岳の奥の院さま、...」などと唱えられる。安満岳は前述のごとく、平戸の修験道の霊山である。修験道ではこの山を崇拝するが、かくれキリシタンにとっても崇拝すべき霊山なのである。

(4) 次に寺院について述べる。平戸には十七の寺院がある。浄光寺(田平町)、円通寺(田平町)、玄祥院(生月町)、正林寺(大島村)、恵日寺(大野町)、瑞雲寺(鏡川町)、誓願寺(石川町)、宝龍院(木引町)、延命寺(津町)、福満寺(迎紐差町)、明性寺(獅子町)、清樹寺(宝亀町)、永光寺(生月町)、法善寺(生月町)、長徳寺(大島村)、金剛院(大島村)、西光寺(大島村)以上の一七寺院である。ここでは生月の寺院についてふれる。生月のEK 寺は鐘銘によると応永二九年(1243)で生月最古の寺である。本尊は観世音菩薩、宗派は臨済宗である。寺院の活動は大般若経での加持を行う寒修行、百万遍、春秋の彼岸の法要、花祭り、盆の施餓鬼の他、先祖をまつる冬至冬夜、また八十八カ所の宿をする。(世話人は盲僧寺院のMH 院)HZ 寺は文禄四年(1595)開創、平戸の誓願寺の分院である。本尊は阿弥陀如来である。活動は寒修行、百万遍念仏、春秋の彼岸、盆の施餓鬼法要、十日十夜(冬至冬夜)を行う。GS 院は中興開山、明治三十二年(1899)である。日蓮宗で、本尊は釈迦牟尼仏である。寺院の活動は寒修行、家祓い、荒神祓い、春秋の彼岸、お会式、盆の法要、節分、大黒天の祭りなどを行っている。寺院の特徴的な活動は春秋盆の施餓鬼、寒修行、本尊の祭り、冬至冬夜などと言えよう。

また、新しい寺院ほど祈禱活動を行っている。

(5) 次にハウニンについて述べる。ハウニンの入巫過程については、以前の科学研究費成果報告書に詳しく触れた。ハウニンは巫者であり、入巫の際にもまた、祈禱活動においても、神がかりすることがその特質である。TM 氏は現在では生月で唯一のハウニンである。祭神は興玉稲荷で、これは祖母の代に神がかりで感得したものである。伏見稲荷教に属する。宗教活動は、荒神祀り、稲荷の祭り、夏越しの祭り、火焚き祭、金神地鎮祭である。病気祈禱、船、車、家の祓い、講経、荒神祓

い、お下がり（病気の判じ、かくれキリシタンのお爺役を神がかりで決定、現在はやっていないという）である。神官の活動は神棚のつとめ、荒神祓いを始め、配札、船や車の祓いなどさまざまな祈禱をおこない、多岐に渡っている。

#### （6）結論

平戸諸島の民俗信仰の特異な点は、宗教者の活動に重なり、融合が見られることである。宗教活動の面では修験と盲僧とに荒神祓い、講経、家祓い、死霊祀り等を行う点で重なりが見られる。盲僧と修験には祀る本尊の面でも共通性がある。修験と盲僧との親縁関係は以前から指摘されているところであるが、説明は今後の課題である。（驚くことに平戸諸島では荒神祓いは寺院や神官、ホウニンもおこなう）。修験でも冬至冬夜をおこなう、修験KS寺などもあり、修験寺院と寺院が重なる。ホウニンもまた、家祓い、稲荷祀り、死霊祀りをする。各種の加持祈禱を行う点で重なっている。神官も又各種の加持祈禱を行う。かくれキリシタンもかつて、生き霊祀りや死霊祀りをおこなったことが、かつての祈禱の文言によって知られる。また、修験と同様、安満岳を崇拜対象としていた。信者もまた、民間宗教者全般をホウニンと呼んで区別しない。荒神祓い、加持祈禱などはそのときの都合によって自由に民間宗教者に依頼する。平戸諸島の民俗信仰はこの様に重層、混融していると言えよう。今後はサンプル数を増やすとともに、信者の側からの調査を深めたい。また、この重層性、混融性が平戸のみに見られるものか他地域を調査し、検討したい。

#### 5．主な発表論文等

該当なし

#### 6．研究組織

##### （1）研究代表者

福島 邦夫（FUKUSHIMA, Kunio）

長崎大学・水産・環境科学総合研究科（環境）・教授

研究者番号：60189933

##### （2）研究協力者

小泉 優莉菜（KOIZUMI, Yurina）